

「若者」との別れ方



一般財団法人 京都ユースホステル協会
総務部長
青田 真樹

僕は、若者ではない。

と思っていたが、世の中的にはそうでないらしい。サポートステーションなど概ね40歳までを「若者」とした事業が増えているからだ。「若者」にも高齢化社会の時代がやってきたようだ。

1992年と2012年を比較すると、海外旅行へ行った人のうち若者（20～24歳）が占める割合は13%から7%に減少した。一方、若者の人口で比較すると、16%から17%へ増加した。20年で若者は約4割減少したが、日本人全体は増加している。

いまどきの若者は…かつてと変わらない。変わったとすれば、人口比率が変わったことくらいである。

若者たちよ、
なんだ、先輩たちと一緒にだということで安心する事なかれ。
もうすぐ「若者」と別れる日が来るのだから。
年齢が基準になることもあれば、
自らが別れを告げることもある。

僕から「若者」との別れ方を提案しよう。
それは、自らを教育することだ。
英語で、教育（Education）は、引き出す（educate）が語源といわれている。
ただし、誰かが引き出してくれるものではなく、
自らを既存概念や誰かに敷かれたレールから引っ張り出すことである。

例えば、旅もその一つである。

（京都市ユースサービス協会評議員）

3

特集

農業が若者たちを待っている！

ねっとわーく

NPO法人 J-HANBS

8

内閣府青年社会活動 コアリーダー育成プログラム

ひろげたい、ユースワーク 3カ国の青年代表と交流

10

若者の政治離れに一石 選挙ドキドキプロジェクト

12

青少年活動センターのページ
アジプロ（就労体験事業）

14

ユースかわら版